

広島県歯科医師会主導の歯科医を対象とした肝炎対策普及活動体制の構築

研究分担者：加治屋 幹人 広島大学病院 口腔検査センター

研究要旨：ウイルス性肝炎に対する予防・治療技術の向上に伴い、肝炎医療の焦点は、治療そのものから受検率・受診率の向上に焦点が移ってきている。そこで、潜在的なウイルス性肝炎陽性者の肝臓専門医受検・受診機会を増加させる方策の検証が本邦で広く行われている。その具体的な方策の一つとして、多くの国民に接する機会の多い歯科医師のウイルス性肝炎に関する知識・意識を向上させることで、本邦のウイルス性肝炎対策活動の進展に貢献するといえる。

これまでに、名古屋市立大学病院の井上らが、愛知県歯科医師会が肝炎対策講習会を主導し、歯科医師への肝炎啓発活動を行うことで、歯科医師の肝炎患者紹介についてのモチベーションが向上することが示されている。さらに、その愛知県歯科医師会による肝炎対策活動を参考とし、広島県において、広島県歯科医師会による肝炎対策講習会を実施したところ、講習会受講直後には、ウイルス性肝炎患者の肝臓専門医への紹介意識が向上する可能性が示唆された。そこで本研究では、広島県歯科医師会による肝炎対策講習会が、実際に、歯科医師の肝炎対策に対する知識・意識と、肝臓専門医への紹介率を増加させる効果があるかを検討することを目的とし、広島県全域で一斉アンケート調査を行った。

2022年3月から2024年3月までの期間に、安佐・山県郡歯科医師会、竹原豊田歯科医師会、呉市歯科医師会、大竹市歯科医師会、広島市歯科医師会、福山市歯科医師会、三次市歯科医師会での講習会を実施済みであった。そこで、2024年7月に、広島県歯科医師全体に対して、ウイルス性肝炎に関する一斉アンケート調査を行った。その結果（回答率11%（152/1388施設）、約31%（47/152施設）の歯科医師が講習会受講経験者となった。そこで、この受講経験者と未受講者に分けてウイルス性肝炎に対する意識・知識の違いを分析したところ、肝炎対策講習会受講者は、ウイルス性肝炎患者の肝臓専門医への紹介が多いことが示された。さらに、肝炎対策講習会受講者は未受講者と比較して、2回目以降の肝炎対策講習会への出席や、肝炎医療コーディネーター資格取得講習会の受講を希望する傾向にあることが確認できた。また、肝炎医療対策講習会受講者の方が、肝炎医療コーディネーター資格取得者の数も高かった。

以上のことから、広島県に於いて、歯科医師会主導の肝炎対策講習会は、歯科医師のウイルス性肝炎に対する知識・意識を高めることが示された。現在、向上した歯科医師のウイルス性肝炎に関する意識・知識をより定着させるために、広島県歯科医師会主導の肝炎対策講習会等を継続している。今後は、肝炎対策講習会の継続に加えて、歯科医師の肝炎医療コーディネーター資格取得者を増加させながら、より積極的に歯科医師が肝炎対策活動に参画する体制の確立を目指していく。

A. 研究目的

C型肝炎ウイルス（HCV）を排除する直接作用型抗ウイルス剤の開発や、効果的なB型肝炎ウイルス（HBV）ワクチン接種の確立によって、ウイルス性肝炎医療の焦点は、治療行為そのものの改善よりも、潜在

的なウイルス性肝炎陽性者の肝臓専門医への受検・受診を促進することにシフトしている。

そのウイルス性肝炎患者の肝臓専門医への受検率・受診率向上方法の一つとして、他医療機関の非肝臓専門医からの紹介が

有効と考えられる。その中でも特に、国民の過半数は「かかりつけ歯科医院」があるという事実から、歯科領域は多数の潜在的ウイルス性肝炎患者のスクリーニングに適しているといえる。その歯科領域の特徴として、歯科医師の8割以上は、大学病院など属するのではなく、自院を開業して地域の患者に対する歯科治療を行っている。すなわち、歯科領域におけるウイルス性肝炎対策の向上のためには、大学病院などではなく、歯科医師会が主導する肝炎対策講習会が有効となるといえる。

この歯科の特性に着目し、名古屋市立大学病院(名市大)の井上らは、愛知県歯科医師会にはたらきかけ、歯科医師会主導のアンケート調査・肝炎対策講習会を中心とした啓発活動を行った。その結果、歯科医師会による肝炎対策講習会は、歯科医師による肝炎患者紹介率を向上させる可能性を見出した(井上貴子ら、肝臓、2021)。この先行研究の成果を受け、他県でも同様の活動を水平展開が可能であれば、本邦の歯科領域全体への有効な肝炎対策啓発活動が確立できると考えられた。

一方、広島県歯科医師会はこれまでに、糖尿病・歯周病と相互関係を見出し、効果的な医科歯科連携体制を構築した実績がある。つまり、内科医との連携実績のある広島県歯科医師会は、上記の愛知県歯科医師会での肝炎対策普及活動の有効性・再現性検証に有効な体性を有していると考えられた。そこで井上らの先行研究を基に、2022年3月から2024年3月の期間で、広島県歯科医師会主導の肝炎対策講習会を広島県内全体(安佐歯科医師会・山県郡歯科医師会、竹原豊田歯科医師会、呉市歯科医師会、大竹市歯科医師会、広島市歯科医師会、福山市歯科医師会、府中地区歯科医師会、三次市歯科医師会、安芸高田市歯科医師会、庄原市歯科医師会)で実施し、講習会受講直後のアンケート調査を行った

ところ、肝炎対策講習会は歯科医師の肝炎対策に対する意識を向上させる可能性が見出された(加治屋幹人ら、広島県歯科医学会雑誌、2024)。

しかし、上記の結果は、講習会直後のアンケートであったため前向きな回答が得られただけの可能性もある。さらに、その講習会の効果を正確に把握し、今後のウイルス性肝炎対策活動をより有効なものに改善していくことで、継続的な歯科医師の肝炎対策に関する知識・意識の向上を図ることが重要である。そこで本研究では、2024年7月に、広島県歯科医師全体に対してウイルス性肝炎に関するアンケート調査を行い、肝炎対策講習会受講者と未受講者の違いを正確に把握することで、肝炎対策講習会の効果を明らかにすることとした。さらに、アンケート調査後も、歯科医師会主導肝炎対策活動を継続することで、その前向きな影響を長期的に締約させることを目指した。

本報告書では、広島県全域で行った広島県歯科医師会主導肝炎対策講習会後のアンケート調査結果に基づき、その有効性を示すとともに、今後のより効果的な歯科医師向け肝炎対策活動の方策を考察する。

B. 研究方法

1) 広島県各地区歯科医師会でのウイルス性肝炎に関する広島県歯科医師全体アンケート調査

アンケート調査の対象は、広島県歯科医師会会員の全歯科診療所1388施設とした。調査期間は、広島県内各地区での肝炎対策講習会が一度終了した後の3ヶ月後となる2024年7月から1ヵ月間(2024年7月～8月)とした。

アンケートの配布ルートは、広島県歯科医師会学術部から各歯科医院へ、肝炎対策講習活動の目的を明記した添え状とともに、アンケート用紙を郵送した。さらに

添え状には、FAX での回答のための FAX 番号と、web 回答も可能にするために、web アンケート用 QR コードも記載した。

回答は、広島県歯科医師会学術部に返送、FAX、もしくは web での返信とした。添え状とアンケート調査票を(図 1)に示す。

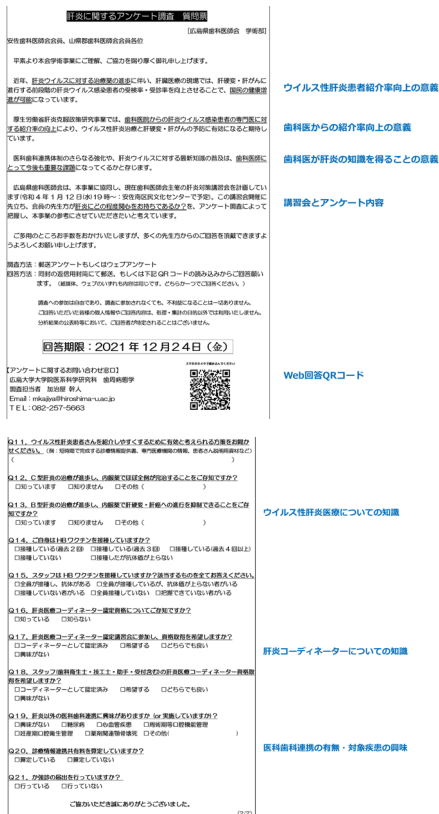


図 1. アンケート添え状

肝炎対策講習会の意義とアンケート内容
主な調査内容は以下のとおり。

- 過去 2 年間に肝炎に関する講習会・講演会に出席したことはあるか？
- 肝炎対策講習会・講演会に出席を希望するか？
- ウイルス性肝炎の患者さんを、紹介しているか？
- 肝炎医療コーディネーター認定資格について知っているか？
- 肝炎医療コーディネーター認定資格取得を希望するか？

2) 広島県各地区歯科医師会員肝炎医療コーディネーターによる肝臓週間における肝炎啓発活動勸奨

2023 年度に肝炎医療コーディネーター資格認定を受けた広島県歯科医師会員に対して、2024 年 7 月 22 日から 7 月 28 日が肝臓週間であり、広島大学肝疾患相談室から啓発資材の配布を受けることが可能であることをメール一斉送信によって告知した。啓発資材の配布を希望した歯科医院に本研究活動の目的を説明し、同意を得たうえで具体的に行った活動内容等についてインタビュー調査を行った。

C. 研究結果

1) 広島県各地区歯科医師会でのウイルス性肝炎に関する広島県歯科医師全体アンケート調査

アンケート送付数 1388 施設中、回答数は 152 施設で、回答率は 11.0%であった。アンケート調査の結果から、対象とした地区において、肝炎対策講習会の受講経験者は約 30.9% (47/152)、未受講者は約 54.6% (83/152)、であった(図 2)。

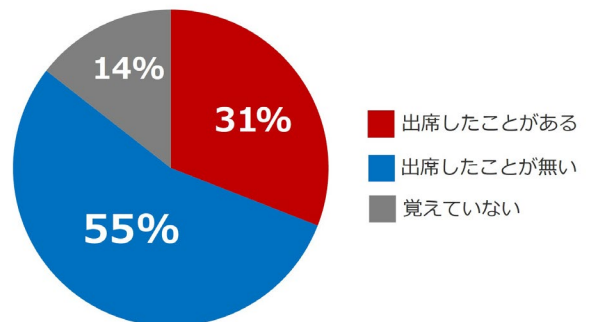


図 2. 肝炎対策講習会に出席したことがあるか

そこで、肝炎対策講習会受講経験者 47 名と未受講者 83 名に関して、肝炎対策活動に関するモチベーションや、肝臓専門医等への患者紹介の有無、肝炎医療コーディネーター資格への興味について比較分析した。

以下に、主な回答を示す。

「肝炎対策講習会・講演会に出席を希望しますか？」の質問に対して、受講経験者のうち61.7%(29/47)が、さらなる肝炎対策講習会の受講を希望すると回答した。一方、未受講者のうち肝炎対策講習会を希望するものは31.3%(26/83)名にとどまった(図3)。受講経験の有無によって、肝炎対策講習会を希望する者の差が約2倍程度認められ、肝炎対策講習会の受講が、さらなる肝炎対策に対するモチベーションを向上させることが示唆された(図3)。

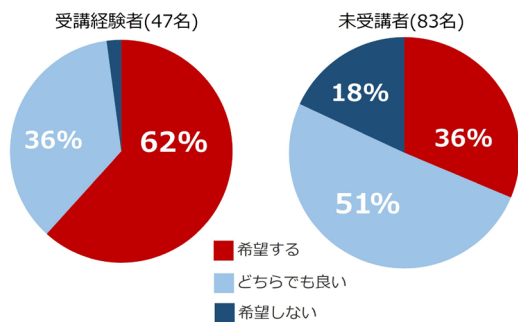


図3. 肝炎対策講習会・講演会に出席を希望しますか

さらに、「ウイルス性肝炎の患者さんを紹介していますか？」の質問に対して、肝炎対策講習会受講者は、肝臓専門医に紹介すると回答するものが約11%(5/47)であった。しかし、講習会未受講者は6.0%(5/83)と、受講者の約半分以下の低値にとどまった(図4)。この結果は、肝炎対策講習会が、歯科医師による肝臓専門医への紹介意識を向上させることを示した。

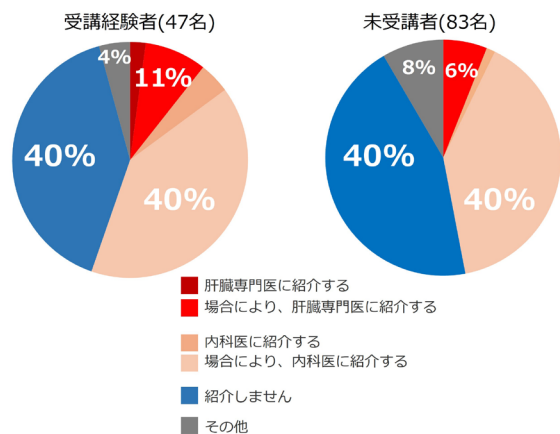


図4. ウイルス性肝炎の患者さんを、紹介していますか

また、肝炎対策活動に関する知識・意識の一つの指標として、肝炎医療コーディネーター認定資格に関するアンケート結果を分析したところ、講習会受講者のうち53.2%(25/47)が肝炎医療コーディネーター認定資格を知っていたのに対して、未受講者の96%(80/83)がその資格を知らなかった。肝炎医療コーディネーター認定資格は、歯科医師においてまだ広く普及されていない制度であり、肝炎対策講習会はコーディネーター養成に重要な役割を担う可能性が示唆された(図5)。

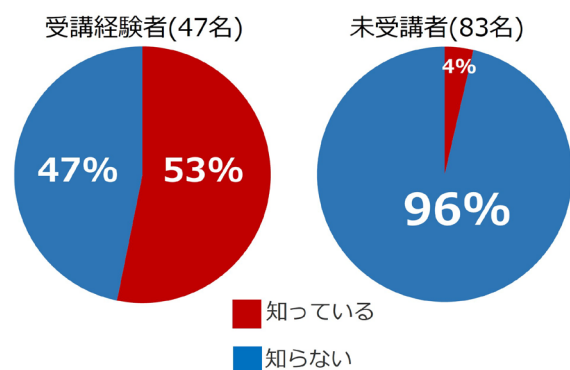


図5. 肝炎医療コーディネーター認定資格についてご存知ですか

加えて、肝炎医療コーディネーター認定資格取得の希望を確認したところ、講習会

未受講者は 9.6%(8/83)が希望したのに対し、講習会受講者は 21.3%(10/47)と 2 倍以上の取得希望をしていた。さらに、講習会受講者のうち、10.6% (5/47) がすでに肝炎医療コーディネーター資格を取得済みであった(図 6)。これらの結果から、肝炎対策講習会は歯科医師の肝炎医療コーディネーター資格取得の向上を促すことが明らかとなった。

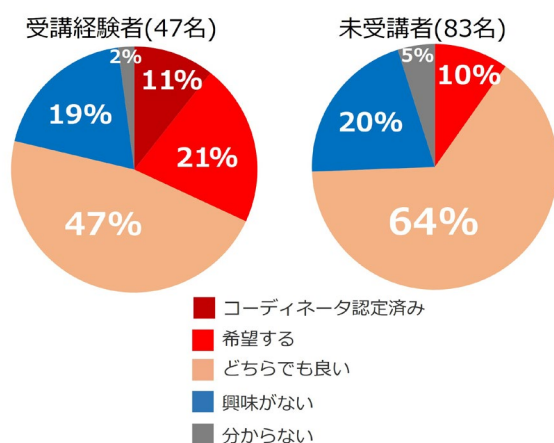


図 6. 肝炎医療コーディネーター認定資格取得を希望しますか

2) 広島県各地区歯科医師会員肝炎医療コーディネーターによる肝臓週間における肝炎啓発活動勸奨

2023 年度に肝炎医療コーディネーター資格を取得した 17 名の歯科医師に 2024 年肝臓週間と、その期間に広島大学肝疾患相談室から啓発活動資材を提供されることを告知した。その結果、啓発資材のうちポスター及びうちわ(図 7)の提供を受け、自院での提示・配布を行った歯科医師が 2 名確認された。

啓発資材(ポスター)



啓発資材(うちわ)



図 7. 肝臓習慣の肝炎対策啓発活動に関して提供した啓発資材

1 名は広島市の歯科医師、残りの 1 名は福山市の歯科医師であった。啓発資材を用いた肝炎対策活動の反応についてインタビュー調査を行ったところ、広島市の歯科医師のケースでは、自院のポスターを見た歯科受診患者が、もっと詳しく知るために肝疾患相談室や肝臓専門医が所属する医院について問い合わせをしてきたことが分かった。また、福山市の歯科医師のケースでは、歯科受診患者が肝臓専門医を自身の判断で受診したとのことであった。

D. 考察

広島県歯科医師会では 2022 年 3 月から 2024 年 3 月までの期間で、県内の大部分の地区歯科医師会におけるウイルス性肝炎対策講習会を実施してきた。特に、C 型肝炎に対する経口薬を用いた治療効果や、B 型肝炎ワクチンの予防有効性を説明し、肝臓医療の実態を伝えてきた。また、肝炎医療コーディネーターによる本邦の肝炎対策活動についても告知してきた。本研究では、この肝炎対策講習会が、歯科医師の肝炎対策活動における知識・意識を向上させるかについて検証を行った。特に、2022 年 3 月以前には、広島県歯科医師は肝炎対策講習会の受講機会が無かったため、1 回目の肝炎対策講習会終了時点で行う本検討は、肝炎対策講習会の効果を正確に推し量るために有効な状態にあったといえる。

本アンケート調査の結果、肝炎対策講習会を受講した歯科医師は、未受講であるものと比較して、2回目以降の講習会受講を希望することが示唆された。先行研究である井上らの愛知県歯科医師会での肝炎対策活動においても、講習会受講者は未受講者と比較して、さらなる肝炎対策講習会の受講を希望することが報告されており(井上貴子ら、肝臓、2021)、今回の所見と一致する。このことは、歯科医師会主導の肝炎対策講習会の有効性を強固に支持するものであり、今後、全国への水平展開によって、歯科領域での肝炎対策の知識・意識の向上につながるものと期待できる。

また、肝炎ウイルス罹患疑い患者の医科への紹介について、「内科医へ紹介する」という考えは同等であるものの、「肝臓専門医へ紹介する」という適切な判断をするものが、肝炎対策講習会受講済みの歯科医師で多く認められた。この結果は、肝炎対策講習会によって適切な知識を得た歯科医師が、ウイルス性肝炎患者の受検・受診勧奨に貢献するようになる可能性を示唆した。

さらに、肝炎対策講習会未受講の歯科医師は、肝炎医療コーディネーター認定資格をほとんど知らないのに対し、講習会を受講した歯科医師市は、知っているのみならず、資格取得希望、もしくは取得済みであることが示された。これらの結果は、肝炎対策講習会は、歯科領域での肝炎医療コーディネーターの増加に有効であることを示唆するものであり、コーディネーター資格取得講習会への歯科医師参加を継続的に呼びかけていくことで、より大きな成果が得られるものと期待できる。

実際に、2023年度に肝臓医療コーディネーター資格を取得した歯科医師が、肝臓週間における肝炎啓発活動を自院で展開することで、歯科受診患者の肝臓医療受検・受診意識に影響を与えたことは、歯科医師

主導肝炎多彩苦活動の有効性を支持するものであるといえる。

今後は、広島県歯科医師会での肝炎対策講習会や啓発活動を継続し、向上した知識・意識の定着を図ることが重要になるといえる。そこで現在も、2回目の肝炎対策講習会を展開中であり、さらに、肝臓医療コーディネーター資格取得の勧奨も行っている。これらの成果を更なるアンケート調査等で分析し、より効果的な講習会内容等を策定され、隣接する県への水平展開も実現可能になると期待できる。

今回の研究結果において、アンケート回答率が11%(152/1388施設)と低値にとどまったことが問題点として挙げられる。特に、肝炎対策講習会受講者の方が積極的にアンケート回答を行った可能性が考えられ、未受講者の実態を把握しきれていないといえる。回収方法は、郵送・FAX・Webと多様なものを用意したにもかかわらず、回答率が低値にとどまった。そこで次回以降の一斉アンケート調査に関しては、アンケート項目を減らすなどの改良を施し、有意な回答を得るとともに、回答率を向上させる取り組みが必要となる。

E. 結論

広島県歯科医師会主導の肝炎対策講習会は、歯科医師のウイルス性肝炎対策における知識・意識を向上させることが示された。特に、適切な知識を得た歯科医師が肝臓専門医への紹介するようになることや、肝臓医療コーディネーター資格取得し肝炎対策活動を行うようになることから、歯科医師会主導肝炎対策講習会は肝炎対策事業として有効となる。

今後、講習会を継続し、向上した肝炎に対する知識・意識を定着させつつ、より効果的な講習会の策定と、他県への水平展開が重要になると考えられる。

F. 政策提言および実務活動

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

1. 井上貴子、加治屋幹人、加藤正美、
静間祐一郎、本山智得、櫻井真人、
荒井泰仁、大西啓之、山崎健次、
大河原伸浩、中村彰彦、田中 靖人、
内堀 典保、是永 匡紹 歯科医師会
主導による歯科医師の 肝炎医療コー
ディネーター養成事業の水平展開
状況 肝臓 2024

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

1. 加治屋幹人：広島市歯科医療福祉対策
協議会学術講演 ウイルス性肝炎の
新たな展開と歯科医師が担う役割
2025年1月25日
主催：広島市歯科医師会

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし